

矢掛里山報告 2016. 6. 22
梅雨の朝・南山田



としさんのトラックは事故で大破し、1ヶ月も休業したが、棚田の田植は今年も例年通りに終わった。
ただ、苗穂の列がいささか歪んでいる。

横谷に抜ける小さな峠沿いに弥生時代の縦穴式古墳の遺跡がある。その案内板の文字は風雨にさらされていささかかすんでいる。文化財保護委員としてはマジックで修復しなければならないな、などと思いながら通り過ぎる。



その峠の手前に水色のあじさい3株が仲良くならんでいる。通勤の車はその前を列をなして突っ走るばかりだが、手前の土手の雑草はキレイに刈り取られている。この花を皆に見せたいと思う誰かがいるのだ。



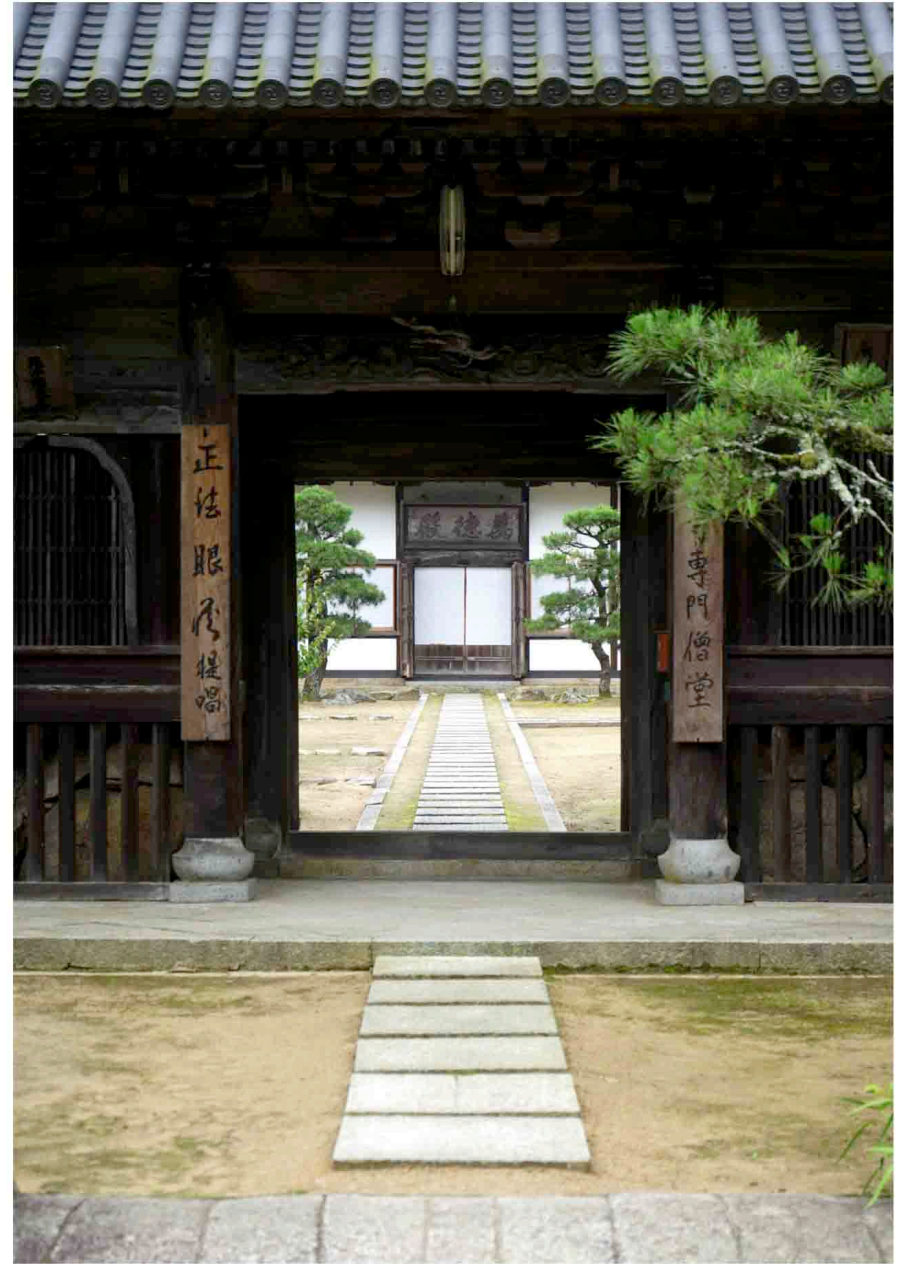


先日開創600年法要をした
洞松寺に向う。門前には記念の
桜が植樹され、当日田植をした
寺田の苗は色濃く育っていた。





5.11の600年記念法要の様子



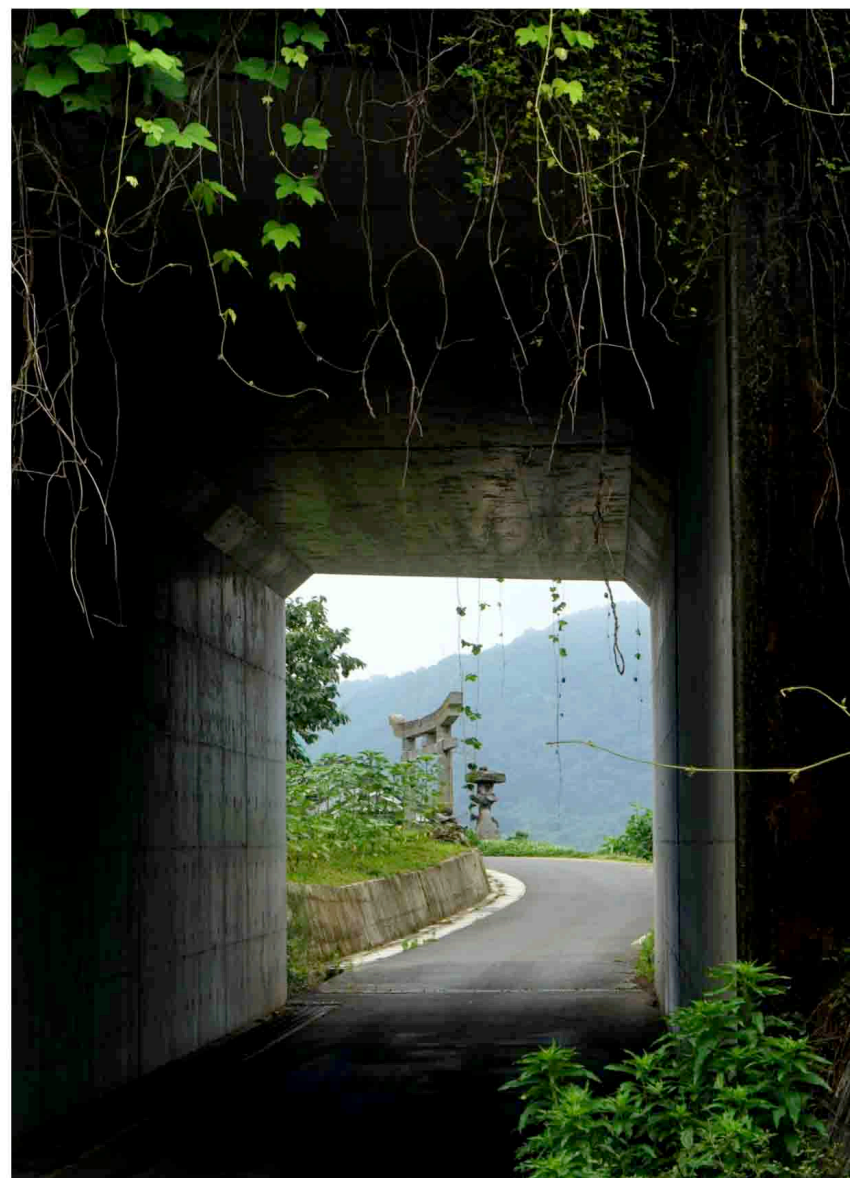
門前に立つと朝の4時から始まっている読経の声が聞こえる。
600年法要の折、永平寺の福山貫首が言われた、専門僧堂として多くの外国人僧を受け入れていることを高く評価する言葉が思い出された。



洞松寺から西へ向って小さな峠をこえると小迫の集落になる。
その浅い谷の奥には古墳時代後期の5層の台座を持った横穴式古墳がある。
中山を背にして、南を向いたこの谷は当時の豪族にとっては墳墓にふさわしい地と見たのだろう。
今その谷の下でアスパラガスと米作りが続けられている。



矢掛の南の外れの南山田はかつては奥山田と呼ばれていた。しかし、平成12年に遙照山トンネルが開通し、山陽道鴨方ICへの最短距離となると、途端に矢掛の表玄関に変身した。そのせいか地区の名称は南山田に変わった。しかし、それで地区が大きく変化したわけでもなく、たった一人で登校する小学生がいたり、トンネルへ通じる道の下のトンネルの向うに御崎神社の鳥居が見えたりする。





遙照山トンネルを越えて下って来た車は右の中山、左の焼山に挟まれた山峡を抜けて矢掛の市街へと向う。山麓に広がる田園と、あちこちに点在するため池の様子はおそらく長年にわたって何の変化も無いのだろう。その変化の無さと、近年激増したトラフィック。それが両立する里山であって欲しいものだ。水面にヒシの葉が密生する森下池の土手ではネムノキがいかにも眠たげな花をつけている。

その山峡に山田小学校がある。柏木地区の小学生が集団登校してきた。仲間内でもめ事があるらしく、ふてくされた顔の子や、興奮した感じの子がいたりしてちょっと険悪な雰囲気。通り過ぎたあとから密かに撮影した。この頃は正面から撮ったりするとにらまれる。全校生徒75人（これでも矢掛では多い方）、世の中には色んな人がいるんだと知る前に、小さすぎる社会で個性を殺すことを覚えてしまいかねない少数学校だ。1.4万人の人口で7つの小学校が必要か？との是非が問われている。



その小学校にもう半世紀以上に渡ってあおばづくがやってきている。6月初旬に中国から飛来し、2ヶ月ほど滞在する。今年は今朝初めてその姿を拝見した。あおばづくは枝と葉の重なりの中に隠れているつもりだろうが、その特殊な形は難なく見つかる。去年(2015.6.4)の顔立ち(右)とソックリだが同じ個体なのだろうか？そうでなければ中国からここまで飛んで来れないのではないか？これで4年連続で見参できた。嬉しくなって家までのラストランがいたく気持良かった。